

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

『AI時代のキャリア生存戦

略』 倉嶋洋輔 BOW&PARTNERS 244頁
1600円＋税

著者はAI/DXコンサルタントです。AIもDXも私の常用している英語辞典には記載されていません。ネットで見ると、AIは人工知能、DXは、デジタルトランスフォーメーションです。とは言ってもその内容はわかりません。

本書は、AI時代に私たちが生き延びていく方法について書いています。本書の対象は個人ですが、会社に置き換えて考えてみてください。では、簡単に内容をご紹介します。

AIは、人間の頭の仕組みを応用した技術だ。この技術の急速な発展により、これまで人間にしかできなかった多くの仕事がAI化されつつある。たとえば、いかにも人間の創造性が必要そうな「クリエイティブディレクター」とか飲料メーカーの「商品開発」にも、すでにAIが投入されている。他にも今までは人間にしかできないと思われていた発想系領域や五感を使った領域のようなどころにまでAIが進出し始めている。

人間の職域に入ってくるAIに対して身を守るには3つの戦略がある。

- 1.安全な高台に逃げる「退避戦略」＝AIやカイ化が進みづらい職業に退避する。
- 2.防波堤を築く「防御戦略」＝複数領域の職能に越境し、人材としての希少性を上げて防御を固める。
- 3.波に乗る「波乗り戦略」＝時流に乗れるサービスを作り、波に乗る。

これら3つの戦略のどれを採用するのかについては、職業のスキルについて、低・中・高に分類してみる。

低スキル：マニュアル型業務

中スキル：非マニュアル型業務を行う一般的なビジネスパーソン

高スキル：企業家、小規模企業の経営陣など、マルチスキルの人

これら職業分類に適切な戦略は次の通りだ。

低スキル：退避戦略

中スキル：防御戦略

高スキル：波乗り戦略

では、それぞれの戦略の中身を見て行こう。

1.退避戦略：この戦略が向いている低スキルな職業とはマニュアル化しやすい。したがってAI化しやすいものである。そこでこのスキルに適した戦略はAIが苦手とする領域に退避することとなる。たとえば、①アロマセラピスト、整体師、②フォトグラファー、③メイクアップアーティスト、美容師、④料理人である。選び方としては、先行事例を調べる、自分の価値観をつきつめる、いままでの仕事や経験の中で気分が高揚したことを思い出し、職業に結び付けるなどという方法がある。

2.防御戦略：この戦略が適している中スキル型の職業とは、「コンサルタント」「商品企画」のように特定の部署に専門特化した非マニュアル化職業領域だ。医師、エンジニア、デザイナーなどだ。これら経験がものをいう専門職の領域にAIが広がっていく可能性は非常に高い。そこで必要な戦略は、現在のスキルを軸足として、他の領域のスキルを身に着けることだ。AIは、2つ以上の領域に対処することが苦手だからだ。

3.波乗り戦略：この戦略向きの高スキル型の職業とは、2領域以上のスキルを実務に生かしている職業だ。このレベルではAIを積極的に利用していく波乗り戦略が最適だ。

さあ、どの戦略を採りましょうか？

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

トップの仕事

トップの仕事のひとつは仕事についてのアイデアを出すことだという人がいます。会社は常に新しい顧客、新しい商品を必要としていることを考えると確かにそのとおり、アイデアは必要だと思います。

アイデアを出す、それだけでも大変なことです。アイデアの成功率は極めて低いと言います。アイデアの死亡率はカエルの卵みだと、経営学の巨人ドラッカーは言っています。一つの役にたつアイデアを育てるには、数千のアイデアを生まなければならない。それら数千のアイデアのどれが成長して大人になるかをあらかじめ知ることはできない、最初から現実的であることはないとも。

ですから、アイデアについて重要なことはたくさん出すことのようにです。著名な作曲家、作家などはほとんどが多作であったそうです。たくさんの作品の中に名品が生まれているのです。

では、アイデアをたくさん出すにはどうすればいいのでしょうか？

1. アイデアは数だ
2. どのアイデアがよくて、どれが悪いのかはなかなかわからない
3. 現実的でないからと言って否定してはならない

まずこの3つを頭に入れて、社員にアイデアを問い、自分でも出す。否定しない。

たくさん出ても、忘れてしまっただけは何にもなりません。保持して成長させなければいけない。ですから記録する仕組みを作ります。ノート、メモ帳でもいいし、パソコンのクラウドを使って社員が誰でも見られるようにしてもいいでしょう。今はいろいろなシステムがあります。

変化の時代

今回1頁で紹介した本は、簡単にいえば世の中変わったのだから、あなたも変わらなさいということを行っています。

実際、私たちの仕事はどんどん変わってきています。岡山でも、真田紐を作っていた会社は、学生服をつくるようになり、ジーンズを作るようになりました。なくなってしまった仕事もいっぱいあります。明治時代人力車を引いていた人たちはあっという間に転職しました。

世の中は、昔から変わり続けてきているのです。ただ、最近は変化のスピードが速い。大きな変化のひとつは、長寿化です。ここ100年以上、それぞれの年の平均寿命世界第1位の国の平均寿命は10年間に2~3年という驚異的なペースで上昇して来ました。その結果現在20歳アメリカ人男性の祖母が生きている確率は、1900年当時に20歳アメリカ人男性の母親が生きていた確率より高くなっているのです。

「自分はそんなに長生きしないから心配しないでいい」とおっしゃる方もいらっしゃるでしょうが、自分で自分の寿命を決めることはできません。「太く短く生きるから、酒も飲むし、タバコも吸うよ」といっても、不健康な状態が長続きするだけかもしれません。「そんなに長生きしないから、時代の変化においついてなくてもいいよ」とおっしゃるかもしれませんが、おいつけなくてわけのわからない時代を生きなければいけない時間が長くなるだけかもしれません。苦しそうです。

変化の時代にあった生き方は、自分も変化するということだと思っています。問題はどのようにして変化していくか、どの方向に変化していくかではないでしょうか？